

フィンドレー大学への協定留学 月例報告書 (10月分)

静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 3年 桑原大樹

目が細すぎて、最近アメリカ人に「眠いの？」とよく聞かれる。からかったりされているわけではなく、シンプルに眠そうに見えるので、尋ねているのだろう。今回はこの件を発端に私が文化の違いを強く感じた出来事の話をしてしようと思う。

私は、留學生活の記録としてYouTubeで短い動画を投稿しているのだが、英語学習の一環で、そのほとんどに英語字幕を付けている。あ、チャンネル登録してくださいお願いします (<https://www.youtube.com/channel/UCM62yEjgXJHPix7Ir8sgkVw>)。英語字幕は基本的にすべて自分で付けて、最後にアメリカ人の友人に英語が間違っていないか確認してもらっている。



先日ディズニーランドに行った動画の冒頭で私は、「目が細すぎて、真顔なのに最近アメリカ人に『眠いの？』って聞かれます。どうもみなさんこんにちは桑原です。」と、こういった感じで挨拶をした。少なくとも日本で友人にこの話をしたら笑い話になるだろう。動画の掴みとして軽い気持ちで取り入れた一案だった。しかし、いざ英語チェックでこれを見たアメリカ人は、急激にSorryな感じになってしまった。Sorryには「ごめんなさい」という意味だけではなく、「相手に対し深く同情する」というような意味もある。私の英訳から「笑い話として捉えている」というニュアンスが伝わらなかった可能性が大いにしてあるが、とにかくこの後が大変だった。

「こんなことを言ったのは誰?! これはアジア人差別だよ! 誰? 言って!? 私がぶん殴ってやる!」と怒り出した友人をなだめるのは、困難を極めた。まず1つ、私が眠いかどうか尋ねられたのは、「アジア人の目が細いから」ではなく、「桑原大樹の目が細いから」である。ここに若干のアジア人への偏見を感じたが、目が小さい傾向は事実だし、私たち日本人も「白人は彫が深い」とか言ってるので気にすまい。先述した通り、私は眠いか尋ねられたことについて全く持って気にしておらずむしろ笑い話になると思っていたし、それが私の疲れを心配した善意からであることは分かっていたので、そのことを必死に説明したのだが「大樹が気にしてないのは分かった。でも私が嫌なの! 誰なの? 言って!」と、ずっとこの調子だった。彼女が叫び続けるので、一緒に課題をしていたアメリカ人もぞろぞろと私のPCの前に集まり、どんどんSorryな感じになっていく。私はただ笑わせたかっただけなのに、意思に反して沢山の友人が傷ついていく。悲しきモンスターの誕生である。オデ、トモダチ、ワラワセル、スキ、デモ、ミンナ、カナシム、ドウシテ…。



どんなに私自身が気にしていないと説明しても、彼女らの怒りが収まることはなかった。もちろん、日本人よりも差別的言動に敏感というのもあるだろうが、私には、彼女達にとっては私自身がどう感じているかはさしたる問題ではなく、私が言われたことについて、彼女達がどう思うのが第一優先であったようにも感じる。しかし、「そこまでの心配をしてくれる人こそ、大事にすべき友人である」というのが、アメリカに定着した文化なのではないだろうか、と私は推測した。これが、「人を心配する」ときのアメリカ人の行動形態なのだと思う。もちろんこれは推測の域を出ないし、私の英語力の問題で意図が完全に伝わっていない可能性も高いのだが、例えばこれが日本で起きたとしても、私が「いや、俺ほんとに気にしていないから！マジで面白いと思ってるから！」と言えば、ほとんどの人は「まああんたが良いらしいけど…」と引き下がるだろう。これは、考え方の大きなギャップである。念のため付け加えておくと、良いとか悪いとかの話ではない。

面白いのは、眠いかどうか聞いてきたのが、彼女である(!?)ということだ。本当だ。しかし「誰なの？こんなことを言ったのは！ぶん殴ってやるから！」と怒る彼女に「君だが？」と伝えることなど、私にはできなかった。この話を聞いて怒るということは、本当に眠そうに見えて心配して聞いたということでやはり間違いないだろうし、言われた私本人は全く気にしていないからである。それにここで「言ったのは君だよ」なんて言ったら、一体どれほどのSorryになってしまうか、現代の科学力では全く予測できない。一緒にいた日本人の先輩は「言えばいいじゃん」なんて軽く言っていたが、全く気にしていないのにめちゃめちゃ謝られるなんて私は絶対に嫌だったので、隠し通すことに決めた。ちなみに、該当のシーンは動画の本編から削除した。本当は、(削除するのは簡単だけど、考え方と文化の違いをうまく乗り越えた翻訳を模索したい)と思っていたのだが、これは今の自分に対処できる問題ではないので、波風を立てないようそう決断した。想像以上に、悔しい経験になった。こういう時、映画などの翻訳家はどのようにしているのだろうか。

外国現地でしか体験できない異文化理解とは、まさにこういうことを言うのだと思う。湯船に浸らないとか、家の中でも土足だとか、冠婚葬祭の形式が違ったりだとか、それらもちろん異文化ではあるのだが、そういう、日本でも知識として簡単に取り入れられる文化の違いではなくて、その文化の違いを背景にして生まれる考え方や価値観の違い、そして自分の見分の狭さを肌で感じるからこそが、国外へ出なければ体験できない、留学へ行く意味になるのではないか。今回の件も面白おかしく描いてはいるが、「私が笑い話として提示した話がアメリカ人には差別的に映ったこと」も、「善意からであれ、人の容姿を理由に発生した勘違いにアメリカ人が憤りを感じたということ」も、事実には変わらない。

例えば今回のように差別問題に焦点を当てて考えてみたら、自分が如何に思慮の浅い人間か明白になる。突然だが、あなたは差別主義者だろうか。私含め、日本人の多くは違うと答えるだろう。差別はいけないことだと当然のごとく思っているし、黒人だろうが白人だろうが、アジア人だろうが何だろうが、または男だろうが女だろうが、人である以上同様に扱われるべきであると考えているだろう。

では、夜道を一人で歩いているときに後ろをついてくる人がいたとして、それが男性だったら、どうだろうか。女性がついてくるより、怖いだろうか。アメリカの夜道を歩いているとして、ついてくるのが黒人だったら、どうだろうか。白人よりも怖いだろうか。それを差別とは言わないのだろうか。そして今ハッとされたあなたも、してないあなたも、もう一度よく考えてみると、その恐怖の違いは本当に差別と言えるのだろうか。日本の男女比はほとんど1:1にも関わらず、殺人の検挙数ではその8割を男性が占めている。アメリカでマリファナ所持の疑いでアフリカ系市民が逮捕される確率は、白人の3.7倍だ。となると、男性や黒人に恐怖してしまうのは、仕方のないことではなかろうか。しかしここでさらにもう一考、アフリカ系だからとマリファナ所持を必要以上に疑われている可能性はないだろうか。事実として、アフリカ系市民と白人で、マリファナの使用率はほぼ同じである(※1)。

上記について何が正解かなどここで議論するつもりはないが、問題は、この程度の思慮もなしに、自分は差別主義者ではないと言い張っていた自分にある。世界を見ることの意味は正解を導き出せることではなくて、自分の思慮の浅さに気付けることである。と、おもいましたまる

思いつくままに書いていたらなんだか真面目な感じになってしまった。言っておくが、留学は楽しい。こんなにシリアスなことばかり考えてない。毎日友達とホラー映画を観てキャーキャー言っている。ただ、もちろんそういうのも大切なのだが、親にお金を出してもらい、心配をかけ、友人たちと過ごす貴重な大学生活の時間を割いてまで来ているアメリカ留学には、意味を持たせなければならない。今回の出来事を単に「大変だったなあ」で済ませるのではなくて、そこから何を学べたか考える時間を持ったこと、そこは少し成長したところかなあ、と思っている。

さて、意識が高くてキモい文章はこの辺にしておこう。ところで今回はかなり多めに文章を書いてしまった。この報告書課題の要旨に「A4で2枚記載してください」とあったので今まで2枚に収めていたのだが、同期たちの報告書を読んだら普通にオーバーしていたので、私が書きたいだけ書くことにした。読むのが大変になるが、今後の報告書もぜひお手隙の際にお目通しいただきたい。Twitterに投稿することを考えて、4枚を超えることはないだろう。

参考文献) ※1

THE WAR ON MARIJUANA IN BLACK AND WHITE

<https://www.aclu.org/files/assets/1114413-mj-report-rfs-rel1.pdf>